

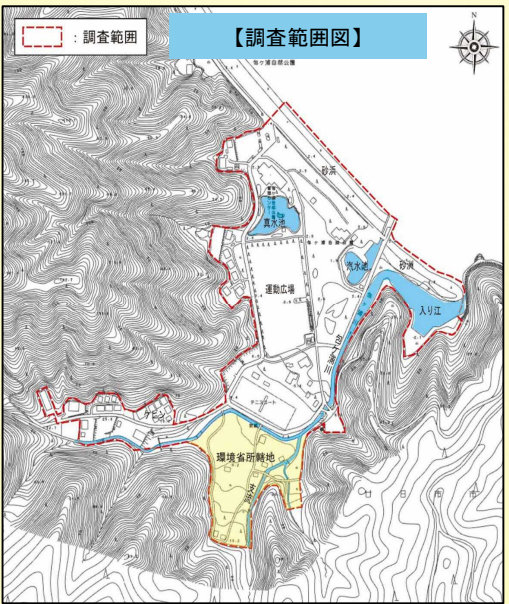
■包ヶ浦自然公園に関する情報提供

ワークショップに先立ち、今後の計画の土台となる各種調査の中間報告が市からありました。

■宮島包ヶ浦自然公園整備計画策定に伴う生物現況調査（秋季調査の一部掲載）

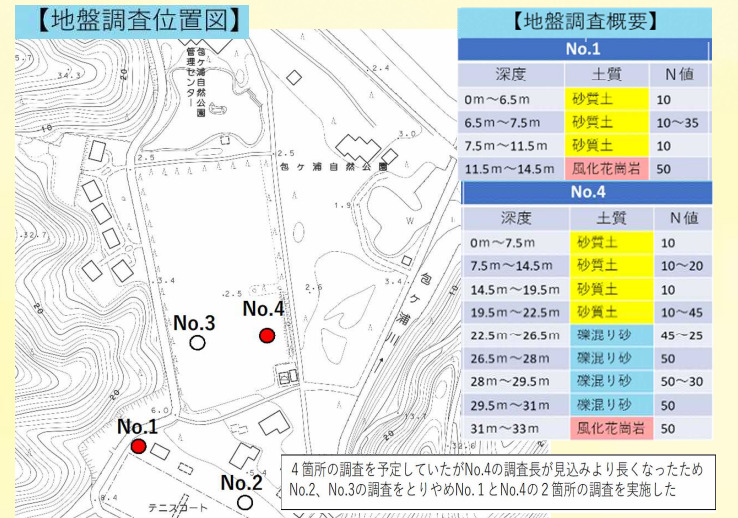
公園内の池の周辺や湧水地において、貴重な種が確認されました。1年間の調査を経て、全体的な評価が行われる予定です。

【確認された生物の一部写真】
※保護上から今回位置が特定できる情報は非掲載です。



■包ヶ浦自然公園地盤調査（速報）

グラウンドとテニスコート付近の地盤は、想定より厚い砂の層で覆われていることが判明。今後の施設整備において配慮が必要となります。



■今後のスケジュール

第2回では部会での検討結果を共有し、他の参加者と意見交換、すり合わせ等を図りました。その結果をもとに、第3回ではこれまでの活用イメージを図として作成したものを提案します。

部会では、今回のワークショップで出た意見を取りまとめ、市が作成した案を元に、包ヶ浦自然公園において必要となる機能や施設など、具体的な検討等を行っていきます。

名 称	日 程	テーマ・内容
済 ■第1回全体会WS	令和7年10月28日実施	■包ヶ浦自然公園の現状把握
3つの部会（自然保護部会、利用促進部会、誘致事業検討部会）を複数回実施 済		
済 ■第2回全体会WS	令和7年12月15日実施	■利活用イメージの共有
3つの部会（自然保護部会、利用促進部会、誘致事業検討部会）を複数回 予定		
■第3回全体会WS	令和8年1月下旬予定	■利活用イメージ図の作成

■厳島港海岸環境整備事業の概要

過去の資料から、昭和50年代の養浜工事で砂が入れられたことが報告され、現在の砂浜が、かつての自然海岸とは異なる姿であることが改めて確認されました。



防砂堤より北側海浜利用状況 栈橋より南側海浜利用状況



宮島包ヶ浦自然公園整備計画に係る 第2回ワークショップ

テーマ「包ヶ浦自然公園の活用イメージの共有」
2025年12月15日（月）14:00～16:15 @宮島商工会館4階 参加者13名

■第2回ワークショップについて

現在は、一部閉園となっている包ヶ浦自然公園の利活用にあたって、地域が有する豊かな自然環境や資源を最大限に活かしながら、地域住民とそのあり方を共有することが求められています。第1回ワークショップでは現状評価や今後の方向性などについて話し合いました。それらの結果をもとに、各部会で必要機能や配慮事項、条件等について検討しました。その結果を共有・意見交換し、さらに利活用のイメージを深めるため、第2回ワークショップを開催しました。

■宮島包ヶ浦自然公園の施設概要		
施設名	建築年	保有機能
管理センター	昭和55年	事務室、食堂、浴場、売店、集会室
ビーチハウス	昭和53年	休憩室、シャワー室、更衣室、売店
家族用ケビン	昭和56年	8棟16戸（各戸定員 4名）
団体用ケビンA	昭和57年	13棟（6棟-定員14名、7棟-定員24名）、炊事棟、ケビンハウス（浴場棟）
団体用ケビンB	昭和59年	2棟（定員16名）
テニスコート	昭和55年	レストハウス
運動広場	昭和55年	15,000m ²
キャンプ場	昭和55年	管理棟、炊事棟、トイレ ※環境省エリア内



■当日の様子		
当日は、地元関係団体から13名にご参加いただきました。		
冒頭に、現在市が実施している生物調査や地盤調査等の速報結果について市から説明がありました。続いて、それぞれの部会で事前に検討した内容について発表を行い、質疑応答を行いました。		
グループワークでは、部会ごとに班（裏面参照）に分かれて、各部会が検討した内容について意見交換し、発表しました。		
部会名	開催日	参加団体
自然保護部会	12/15(月)	NPO法人宮島ネットワーク みやじま未来ミーティング
利用促進部会	11/27(木) 12/ 3(水)	宮島町総代会 宮島町商工会 宮島包ヶ浦自然公園を守る会
誘致事業検討部会	11/12(水) 12/ 5(金)	宮島旅館組合 宮島観光協会

全体説明の様子		プログラム
	14:00～14:05	■開会のあいさつ ■第1回WSから部会の進捗概要報告等
	14:05～14:15	■本日の進め方 ■包ヶ浦自然公園に関する情報提供
	14:15～14:45	■部会検討結果の発表 ■質疑応答
	14:45～15:30	■グループワーク 質疑応答を踏まえた検討結果の改善・バージョンアップの検討
	15:30～16:10	■各班からの発表 ■ワークショップコーディネーターからの講評
	16:10～16:15	■閉会のあいさつ

■はじめに■会場から「議論の前提となる“ビジョン”が必要ではないか」との意見があり、宮島包ヶ浦自然公園利活用方針にあるコンセプトを共有し、相互理解できました。

コンセプト：『感動と学びを体感する包ヶ浦自然公園の再生』

～宮島の自然・文化・歴史を継承し、新たな魅力を付加した瀬戸内エリアの周遊・滞在拠点～

- 自然環境の保全・再生に取り組み、宮島の豊かな自然 環境を守り伝えるための場
- 自然に触れ学習できる場
- 誰もが安心して、包ヶ浦自然公園ならではの様々な体験ができる憩いと癒やしの場
- ゆっくりと滞在し、楽しんでもらえる付加価値の創出

(令和7年3月／廿日市市策定のp 20より引用)

■ワークショップで共有された利活用等のアイデア

1班 自然保護部会

NPO法人宮島ネットワーク
みやじま未来ミーティング
宮島地区パークボランティアの会

施設の再編と拠点化

管理棟を自然体験や学習の拠点として事務所や学習機能を集約する一方、土砂災害の危険があるケ빈は自然に負荷をかけずに、段階的に解体すべきという意見がありました。また、ビーチハウスは壁を取り払い、屋根と柱だけの日陰の休憩スペースとして活用するなど、今ある施設を「いる・いない」で判断し、安全かつ有効に利用していく提案がありました。

豊かな自然環境の保全と再生

瀬戸内海で唯一となったシバナの自生地を保全するため、生育不良の要因である鹿による食害対策用の防護網を撤去し、池全体を柵で囲う方式へ転換することや、老朽施設の改修を行い、適切な生育環境を整備すべきとの意見が示されました。あわせて、将来的にはミヤジマトンボが生息可能な環境づくりや、松林の再生計画を推進するなど、包ヶ浦全体の自然環境をより積極的に保全・再生していくべきとの提案もありました。

環境問題への先進的な取り組み

海岸に散乱する発泡スチロール対策として、学校などと連携してビーチクリーナーを開発したり、鹿のフンやゴミを燃料とするバイオマスプラントを設置したりするなど、様々な提案がありました。これらの問題に対し、清掃活動だけでなく、技術やアイデアで解決し、環境学習やエネルギー利用にも繋げる先進的な取り組みが期待されるとの意見がありました。

宮島全体の魅力向上への貢献

包ヶ浦を宮島全体の自然体験の拠点として明確に位置づけ、宮島桟橋ターミナルに「歴史・文化」と「自然」のエリアを示す案内板を設置したり、島全体の看板デザインを統一したりして、来訪者を誘導する仕組みを構築すべきだという意見がありました。また、DMOなど他のまちづくり組織と一体となってルール作りを検討すべきとの提案もありました。

持続可能な活動と運営体制の構築

杓子定規なゾーン分けはせず、「できることからすぐ始める」を基本方針とすべきだという意見がありました。その上で、管理棟を様々な団体が集う活動拠点とし、指導者養成プログラムを展開したり、利用者が守るべき宮島独自のルールを策定したりするなど、持続可能な活動を実現するための具体的な運営体制を構築していくべきとの提案がありました。

2班・3班 利用促進部会

宮島包ヶ浦自然公園を守る会
宮島町総代会
宮島町商工会

「静かな聖域」としての包ヶ浦

厳島神社周辺の「動」の賑わいに対し包ヶ浦を「静」の聖域と位置づけ、来訪者が「厳島」の神聖さを感じながら内面から再生するような質の高い体験を提供する場所にすべき、という意見がありました。

プロが運営する「自然学校」

具体的な事業モデルとして、環境教育のプロが運営する「自然学校」の仕組みや事例紹介をされ、質の高いエコツアーや企業研修で収益を確保し、持続可能な運営を目指すべき、との提案がありました。

防災と環境に配慮した拠点

広大なグラウンドを災害時のヘリポートとしての活用の必要性など、新たな「防災拠点」としての役割が重要という意見がありました。また、地下水流にも配慮した開発が求められるという指摘もありました。

専門家との「共創」

市民の議論だけでは限界があるため、国立公園に詳しい専門家や議論を導くコーディネーターの知見を取り入れ、時間をかけて共に未来を創り上げていくプロセスそのものが重要である、という意見がありました。

4班 誘致事業検討部会

宮島旅館組合
宮島観光協会

災害ハザードを考慮した利活用案

現在の土砂災害の危険性等を考慮した場合、利活用可能なエリアは限定的であるとともに、避難体制等を考慮した利活用案が必要との意見がありました。例えば、少人数の宿泊施設や野営キャンプ場で車の乗り入れを可能とすることで災害時にすぐに避難できるような仕組みなどの意見がありました。

その他利活用案

修学旅行生の体験施設の設置や包ヶ浦自然公園の維持管理や収益面を考慮して、駐車場の有料化などのアイデアが出されました。

今後の検討の進め方

現在実施中の民間事業者の意見（サウンディング調査）も踏まえて、慎重に検討を進めべきだという意見がありました。

ワークショップの総括

以前からの取組である清掃や自然教育を継続し、発展させていく「すぐ出来る活動」を起点に行動を広げ、継続していく拠点整備計画への提案、また「宮島まちづくり基本構想」が示す「全島博物館厳島」を実現する機会と捉えて、時間軸や取組範囲を広げて包ヶ浦を考えることの大切さ、自然学校へのシフトアップや防災拠点機能を併設する提案がありました。

世界遺産である厳島では、1000年先を見据える長期的な視点、島全体を捉える広い視野とともに、目の前のゴミ対策など、今すぐ取り組むべき課題にも向き合い、宮島の自然「静かな時間」という魅力発信の場となるため、今後も皆様と議論を重ね、より良い宮島のための具体的な整備計画を考えていきたいと思います。